

梅窓院通信

秋彼岸号

No. 72

2014/09/01

青山



平成26年開山忌法要のあと、法然上人を祀る祖師堂で能楽を奉納する橋本忠樹氏。

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成



皆様、こんにちは。お変わりなくお過ごしでしょうか。今年も五月中旬に施餓鬼会を無事厳修できました。大勢の方に「ご参拝頂きありがとうございます」とおっしゃいました。この施餓鬼会、子供広場といつて0歳児からのお子さんを預かれる施設、スタッフを毎年ご用意しております。どうぞ、安心してお子様、お孫様とご一緒にお越し下さい。小さい頃からお寺と親しんでもらえることを願っています。

五月下旬には団体参拝で九州は福岡県久留米の善導寺に行つて参りました。法然上人の八百年遠忌に合わせ修復や移築した伽藍を拜見してきました。善導寺の本堂、客殿そして庫裏ともに江戸時代の建物ですが、実は明治維新後に寺の経済状況がひつ迫し、庫裏の建物の一部を売っていたそうです。しかし、幸いなことにその建物がそのまま残されていることがわかり、買い戻して移築、完全なる昔の姿に戻されました。本堂と客殿、庫裏が続いている江戸時代の建物はとても珍しく、最古の建物になるそうです。これには参加者はもちろん、私も大いに感激した次第です。古いものを新たに造ることはできません。かわるものがない、本堂に貴重なものとの出会いでした。

さて、六月には開山忌法要を執り行いました。梅窓院の数ある法要の中でもっとも新しい法要ですが、この寺を開創された開山南龍上人への報恩の念を読経に込めお勤めさせて頂きました。

この開山忌には当初より、能と一緒に奉納しています。舞つて頂くのは橋本忠樹さん。この世界を代表する演者の一人です。能は日本の大切な伝統芸能の一つですが、難しい、わかりにくいと思われている方もいるかと存じます。ですが、橋本さんの丁寧な説明付きで、あらずじもお配りしていますので、わかりやすく飽きることもありません。能という伝統芸能に触れるにはとてもいい機会です。来年も六月に奉納、無料でご覧頂けますので、ぜひお足をお運び下さい。

秋の果実の供え物

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

実

りの秋は万木千草に豊かな結実をもたらず。日本列島の東西南北、いずれの土地でも五穀は豊穰にして、収穫の喜びに感謝の思いも殊更である。

とりわけ、秋の実りの代表が秋のくだもの(果物、菓物)、秋果である。春先から初夏にかけて咲いた花が、やがて秋になって樹木の枝にたわわに実る大自然のすばらしい贈り物である。桃・梨・柿・栗・林檎・葡萄など、色とりどり、味もさまざまにおいしい秋の果実である。

「くだもの」の「く」は木のこと、「だ」は「の」のことで、木の物、木になる物の意味である。

沈む色深く秋色果盛られけり (貞峰)

果物籠や果物鉢・果物皿に盛られた色彩もいろいろなくだものを眺めて、岡田貞峰は満足しているのである。「果物急ぎ」という言葉があるが、私などは、早く食べたい思いが先になって、思わず手が出てしまうところである。

さて今回は、仏壇や供養棚に供える秋のくだものに仏心を託して、果実の実に深く感謝しながら、まごころのこもった供え物に供養の心を新たにす

る俳文としたい。

桃は初秋のものとする。桃の実・白桃・水蜜桃・毛桃・油桃などの季語が並ぶ。

桃を吸う密教の地にしたらし (とみ子)

真言密教の聖地でお大師さまを思いながら、恩賀とみ子はみずみずしい汁気の高い水蜜桃を味わっている。

仏へと梨十ばかりもらひけり (子規)

仏への供養にともらった梨が十個ほど。正岡子規の人となりへの熱い思いがある私には、なつかしく、好ましい感情があふれてくる。

当麻寺の塔の見えあし柿を食む (綾子)

相生垣瓜人の句に、「子規よりも多くの柿を食ひ得しか」とあるが、子規の柿好きはもとよりよく知られている。有名な「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」も、そのことを知っていればさらに親しみが増すわけであるが、細見綾子は同じ大和の、あの中將姫伝説と当麻曼荼羅で名高い当麻寺を仰いで柿を食べている。

なお柿は晩秋の季語であり、季語欄には、渋柿・甘柿・樽柿・串柿・ころ柿・吊し柿・干柿など関連する語も多

いが、禅寺丸・祇園坊・伽羅柿・円座柿・十夜柿などの仏教季語も多い。

童等と落栗拾ふ山の僧 (迷子)

虚子門の岡安迷子の句に山栗のなつかしい味を思うとともに、私自身の子供時代の栗拾いの思い出に心を遊ばせる。

不断燈仏の林檎真赤にす (林火)

上五を「不断燈」と区切って読むが、灯明に赤く映える林檎の際立った赤色を、さらに大きく包む御仏の大慈光を見据えている大野林火の句である。

金銀瑠璃碑磔瑠璃琥珀葡萄かな (東洋城)

大正天皇へ奉答句を捧げた感慨を詠んだ、「渋柿のごときものにては候へど」の句で知られる松根東洋城の一句である。『無量寿経』には、「その仏の国土には、自然の七宝、①金②銀③瑠璃④珊瑚⑤琥珀⑥碑磔⑦瑪瑙をもって合成して地とせり」という経文があり、仏典における七宝の出典の一つとされているが、ここでは珊瑚の代わりに葡萄が入って、七宝が完成している。

秋の果実の供え物、私はやはりおいしく食べる方に心がはやっている。

(大正大学学長)

五・六・七月の

行事報告

施餓鬼会法要
5月17日(土)



団体参拝旅行
大本山善導寺
5月26日(月) -
27日(火)



台下にご垂示頂きました。

郡上おどり

in 青山法要
6月28日(土)



法要後に本堂で郡上おどりを奉納する郡上おどり保存会の皆さん。

第62回念仏と法話の会
6月19日(木)

盂蘭盆会法要
7月13日(日)



秋彼岸法要

九月二十三日(火)

彼岸寄席 午後一時～ 地下二階 祖師堂にて

三遊亭多歌介師匠プロフィール

1966年11月26日東京都江東区生まれ。父親の転勤で日本各地を転々とし、小学校で人を笑わせる幸せに目覚める。中学校では落研を創設し、現在も後輩に指導をしている。モットーは「落語は世界を救う！」。

1983年 三遊亭圓歌に入門。

1989年 二つ目昇進「歌風」改名

1997年 真打昇進「三遊亭多歌介」襲名

前座：林家つる子さん



三遊亭多歌介師匠

秋彼岸会法要 午後二時～ 地下二階 祖師堂にて

※ご法要の受付は一階観音堂にてお済ませ下さい。

◆第五回写真コンクールのお知らせ◆

応募作品を観音堂(二階)に展示致します。テーマは自由で締め切りは九月十四日です。ご応募お待ちしております。 ※詳細は前号同封のちらしでご確認下さい。

塔婆申込み方法

塔婆回向料…1本/7000円

- 同封のハガキにご記入の上9月15日必着でお申込み下さい。
- 御回向料は、同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、受付までお持ち下さい。(銀行・コンビニでのお支払いはできません。)

お檀家様へお願い

- お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方で境内が大変混み合います。ご来寺の際は電車等、公共交通機関をご利用下さい。
- 9月20日～26日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願い致します。



平成26年度 秋の動物慰霊法要のお知らせ

梅窓院の僧侶がご供養に努めます。

ぜひご参列下さい。

正午～ 2階本堂にて

主催：株式会社日本エキスパートシステム

秋彼岸に寄せて

阿弥陀佛と 心は西に
空蟬の もぬけ果てたる
声ぞ涼しき

法然上人御詠

蛸の声に夏の寂しさを感じる今日この頃。盛夏の疲れの出やすい時期ですが、夏風邪など召されていませんか。

先日立秋を迎え、暦の上では秋を迎えました。そして来月は秋分を迎えます。この秋分を迎える日を中心に行われる仏教行事が「お彼岸」です。

「彼岸」とは「彼の岸(むこうの岸)」、つまり阿弥陀様のいらっしゃる西方極楽浄土を指します。春分・秋分の日には、昼と夜の時間が等しくなり、太陽は真東から真西に沈みます。

したがって、この時期に阿弥陀様を礼拝することがふさわしいとして、日本独自の仏教行事、「お彼岸」が行われるようになったといわれています。

さて、冒頭で紹介しましたお詠は法然上人御作のもので、「南無阿弥陀仏をお称えしていると、心は西方極楽浄土に向き、まるで蟬が脱皮した時の(声が清々しい)ように、妄念もなくなり、念仏の音が清々しいことです」という意味になります。季節感があがり、お念仏の持つエネルギーを受け取ることができそうです。

来月の九月二十三日、梅窓院ではお彼岸の大法要があります。どうぞご家族でご参加ください。そしてみなさん共々に声高らかにお念仏をお称え致しますよう。

(法務部)

浄土宗の仏具と衣



輪袈裟にもいろいろな色や柄があります。

お寺からお渡しする輪袈裟セット。



前回で袈裟の話をしましたでしたが、今回は入檀された時にお渡しした輪袈裟と数珠の話です。

輪袈裟は袈裟の中ではもっとも扱いやすいもので、その名の通り輪っかの形状で、首にかけるだけ、そして二つ折りにもなる携帯しやすい袈裟です。

ですが、かける時にはちょっと注意が必要です。写真①、②と説明を参考にして下さい。かけた時に首の後ろにくる梅窓院の寺紋の上下が逆さまにならないのがポイントで、正しくかけると、梅窓院の文字が人から見ると右側、自分が見下ろすと左手側に

きます。

扱い方としては、食事をする時と、洗面所に入る時ははずしません。そして、畳や床には直接置かないようにします。また、できればかける時に大げさでなくて構いませんが、恭しく頂いて小さな声で念仏を称え気持ちを含めてからかけます。

次に数珠ですが、皆さんにお渡しした数珠は日課数珠といいますが、普段は左手首にかけておきます。合掌する時は親指にかけてます。写真③と説明を参考にして下さい。

この数珠は二連の数珠といって浄土宗だけの特別な数珠で、念

2 輪袈裟のかけ方

首の後ろにくる梅窓院の紋の上下が正しくなるようにかけます。正しくかけた状態の写真を参考にして下さい。



1

2

日課数珠のかけ方

合掌した親指と人差指の間にかけます。



3

輪袈裟と日課数珠、葬儀や法事、法要に参列される時には忘れずにお持ち下さい。

浄土宗では念仏の多い少ないを問うことはありませんが、生活の中に念仏は当たり前、できれば「念仏の中に生活がある」のが理想で、この数珠が大いに役立つのです。数え方は写真④〜⑥と説明を参考にして下さい。

これを左手でうまく操ることでも暗闇でも念仏の数を数えられる、いわば算盤や計算機の役目を果たすのです。

二連のそれぞれに親珠と呼ばれる大きな珠が入っていて(写真④)、片方には普通の珠の間に小さな珠が入っています。さらに、「したら」という十個の平べったい珠と六個の丸い珠がぶら下がっています(写真⑤)。

仏を称える時の数取りの道具にもなっています。念仏を称える時に、南無阿彌陀仏と一回称えるたびに珠を一つくくるのです。

6 日課数珠での数のとり方

- 二連のうちの同じ大きさの珠の輪を人差指の上に乗せ親指で挟む。小さい珠が入っている輪を中指の上に乗せ人差指で挟む(写真④)。
- 念仏を一回称えるたびに親指で珠を一つくり一周して親珠に戻ったら、二連の小さい珠が入っている輪を一つくくる。
- これを繰り返し、小さい珠が入っている輪の親珠に戻ってきたら、したらの十個の平珠を一つくくる。十個の平珠が一周したら、六個の珠を一つくくる。
- 以上を繰り返す。六個の珠がくり終わると約六万遍の念仏を称えたことになります。



6



5

したらの部分。



4

大きい親玉からスタート。

連載でお送りしている囲む人々の梅真会シリーズ、今号は神奈川県三浦半島にある三樹院、住職にお話を伺いました。梅窓院の寮が賑やかだった頃の思い出をたどって頂きました。

◆本日はお忙しいにも関わらず、ありがとうございます。今日は昔を思い出して頂き、梅窓院時代のことをお聞かせ下さい。

はい、懐かしいですね。

◆梅窓院の寮に入ったきっかけをお聞かせ下さい。

今も毎月届けられています。浄土宗が官報として全寺院に配布している『宗報』の募集欄で見たのがきっかけです。大正大学新生生の住み込み寮の募集でした。

◆当時は隨身という住み込み学生をいくつものお寺が受け入れていたと聞きますが、梅窓院を選ばれた理由は何でしたか。

初心者で構わないこと、と謳ってあったからです。

というのも高校生の時に先代住職の祖父が遷化し、忙しかった先代の父の姿を見るうちに、僧侶になろうと決心しましたが、先代は長男の私が自然に寺を継ぐようにと子供の頃から一緒にお経を読ませることをしない人でした。ですので、お経は何一つ読めない。そんな私にこの謳い文句はぴったりでした。

◆なるほど。お寺生まれながら、全くの白紙で応募された。

ええ。でも、本当に何もできないことを伝えると、一度師僧と一緒に面接に来なさい、ということになって、地元の中学で教頭(教科は数学)をしていた先代がやりくりして一緒に行ってくれたことを覚えています。真哉住職にお会いしたら、「当山寮生で、初めての志願兵だ」と言われました。どうやらそれまでは師匠や知人の紹介学生ばかりだったようです。

◆なるほど、志願兵第1号ですか。そして寮生活が始まったのですね。

はい、でもいざ入ってみると同期の寮生はみんな一通りどころかしっかりお経が読める。先代住職の奥様からは、「あなた、頑張らないと一番先に寮を出ていくことになるわよ」と励まされました。

◆大変なスタートとなりましたね。

そうですね、ですが、昭和46年3月15日に入りましたが、その翌日に1人、翌々日に1人と寮生が入ってきました。当時、寮の決まりごとで、一番下が食事の時にご飯を盛り付け、二番目が味噌汁をよそうことになっていましたが、私は一日でご飯を、



中島住職と緒に、三樹院ご本尊の前で。

二日で味噌汁当番を卒業しました(笑)。

◆一番の思い出は何でしょう。

3日間続けて入ってきた私たち新人の歓迎会ですね。入って一週間後でしたか、退寮される3人の先輩とさん、さん、さんという先輩方が、私たち3人の入寮祝いをしてあげるから家からもらった小遣いを出すように言われ、そこから必要な定期代と教科書代がそれぞれに戻された後、残ったお金で買い出しに行ってくるように言われました。

◆あららら。

言われた物を買出しして帰ると、地下からビールを持ってこいと、後で知りましたがこのビール、真哉住職のビールでした……。そして大宴会です。後片付も3人でさせられて……。これって、新人歓迎会ですかね。

◆いいえ、先輩に新人がご馳走させられた会、ですね。

もう、この先輩方の内4人は遷化されていますが、ひどい先輩たちですよ(笑)。

◆きっと、極楽浄土で笑っています。

大学の勉強はいかがでした。

私は高校では理科系でしたから漢文や古文は全く習っていない……。ですが真哉住職のご友人だった先生や先生などが梅窓院に来られた時に一から教えてくられて、大変な難かったですね。

◆昔から梅窓院は人の出入りが多いお寺だったのですね。

もうひとつ。私が2年生の時、先代である父が教頭から校長試験を受けるにあたって、教育委員会としては校長である父がお寺の仕事で学校を休まれるのは困る、代わりにお寺の仕事をしてくれる僧侶はいるのか、ということになり、普通は4年生で入る僧侶になる加行(最後の修行)に3年生で入れてもらいました。なおかつ、真哉住職に一筆書いてもらいました。今、考えると随分バックアップしてもらっていましたね。

◆特別扱いだったのですか。それはさんが真面目で優秀だったからでしょう。

いえいえ、真孝前住職と真哉住職に色々ご指導頂いたおかげです。

◆お二人のことをお話し頂けますか。

真孝先生は誰でも分け隔てなく接され、説得力が身体から滲み出てくる、暖か味溢れる先生でした。真哉先生は神経が細かく、気は短めでした。その分、とても良く気がつく先生で、いつも着物姿でお洒落で、そして何より、新聞や本をよく読まれていて色々な事を教えて下さいました。

◆そうですね、このシリーズのおかげでお二人の人柄に触れられます。

最後に、先生のお寺が海に近く、梅窓院一行も遊びに来ていたと聞きましたが。

ええ、海水浴には持ってこいのロケーションですから、何回もお見えになっています。

◆では、また今度伺わせて頂きます。

本日はお忙しい中、大変ありがとうございました。

昭和27年神奈川県生まれ。大正大学仏教学部を卒業後、大学院への誘いを断り今でいうフリーター生活を2年過ごし、私立女子高校の非常勤講師に。以後、その人柄が買われ正式採用、生徒会指導部長、教務部長、教頭、副校長などを歴任。平成23年に退校しても教育顧問や理事会監事を務める。平成21年に三樹院住職に就任し現在に至る。

青山散歩道

特別寄稿

日本料理 乃木坂 神谷
梅窓院檀信徒

さん



梅窓院の檀家さんのお店を紹介するこの青山散歩道特別編、第三回は乃木坂で「日本料理 乃木坂 神谷」を開いているさん。昨年十月に檀家さんになられたばかりです。世界的にも注目を浴びている和食ですが、店名の肩書にもなっている日本料理についてお話を伺います。

「日本料理」と言つと、あまり身近な感じがせず、どんな料理を言うの、という方が多いかもしれません。ですが、季節の素材を、その味や風味を活かして食べる料理で、調理方法に決まりはありません。ですから、四季の彩に溢れ、海に囲まれ、山や川も豊かな日本だからこそ生まれた最も自然で私たちに親しみやすい料理ということ覚えておいて下さい。

数年前に銀座に同じ「神谷」という店を出しましたが、場所柄もあるのか、若いカップルが多く来てくれています。記念日など特別な時に、少々奮発しての来店でしょうが、幅広い層の



乃木坂「神谷」があります。

方に日本料理を楽しんで頂けるのは嬉しいかぎりです。

さて、「日本料理」とは実は関東料理と関西料理が一緒になって生まれたものなのです。すでに関東料理を出している店はなくなってしまっていますが、関東料理とは見て楽しむ、お土産でも持って帰れる味の濃い料理で、

1947年愛知県出身。中学卒業から料理人道に入る。和食の名店で修行を積み、「赤坂 きくみ」の料理長を18年務める。平成6年「日本料理 乃木坂 神谷」を開店。現在は銀座などにも出店。また銀座三越惣菜売り場にも出店している。日本料理界を代表した故阿部孤柳氏をはじめ多くの名料理人との交友がある。

いわばお正月のおせち料理と思つて頂ければわかりやすいですね。

それに対して、関西料理は薄味の食い切り料理、ということですね。濃い味に慣れている人が、この薄味を本当に美味しいと感じられるようになるのには三か月ぐらいかかるかもしれません。

「日本料理」の特徴といえば他の料理の邪魔をしないことですね。たとえば七品あったら、その七品全部が後を引かない。それぞれがそれぞれに舌を楽しませる。これを言うのは簡単ですが、なかなか難しいのです。

人気のある女優さんが主役を演じれば、脇役はある程度の俳優さんでも務まるかもしれませんが、人気俳優なしとなると出演者一人ひとりそれぞれの責任を果たさなくてはなりません。日本料理も同じです。主役となるメインのために……ではなく、料理一品一品が影響し合わず、みんな主役となるわけですから。

今世界的に注目を浴びている和食ですが、コースで楽しむ和食料理はこの他にも京料理、精進料理、茶懐石など、色々なジャンルがあります。興味のある方は実際に食べ比べてみて

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

◎特選

○ 初物のそら豆ゆでて佛前に

◎入選

○ 朝戸操る日々紫陽花の色を見て

○ 夏の空なでるがごとく鳥の群れ

○ ビルの間に薨はひかり雲の峰

○ 夕立や振り向く山はもう暮れて

○ 白樺の花に木漏れ日かをるかに

○ 地面濡らして金魚売去りにけり

○ 建て売りの店番ひとり夏の雲

○ ゆつくりと地に着きにけり夏落葉

◎選者詠

○ 山伏に道ゆづりけり時鳥

大崎 紀夫

（ウエップポイントアドバイス）

夏が過ぎると秋。秋といえば「菊や」月が頭に浮かびます。中でも月の季語はびっくりするほどたくさんあります。陰暦八月十五日の季語は「十五夜」「名月」「望月」「月今宵」などがあり、雲のため月が見えないときは「無月」「雨のときは「雨月」が使われます。そして前日には「待宵」「十五夜の次日は「十六夜」、それから二日毎に「立待月」「居待月」「寝待月」と続きます。これらの季語には、月に対する日本人の細やかな感覚が現われています。この秋は月の季語のそれぞれを詠んでみてはいかがでしょう。

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウエップ編集室
電話03-5368-1870

投句募集

今回は「秋の季語」でご自由にお詠み下さい。10月20日を締切、平成27年1月発送の『新年号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さいませ。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

青山散歩道

乃木坂神社

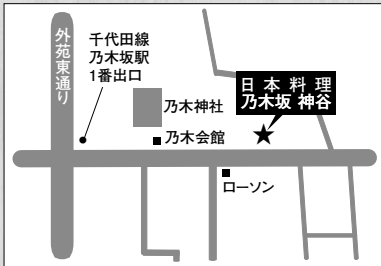
日本料理 乃木坂 神谷

今回紹介するのは、一期一会の料理を楽しめる日本料理屋。毎日来店しても新しい味や料理を味わってもらえるように、同じ素材でも調理方法や味付けを変えるというこだわりよう。少々敷居は高く感じるが、主人の神谷さんは「若い人にも本当に美味しいものの味を教えてあげたい」と語り、お昼なら豪華な弁当が3,000円で味わうことが出来る。他にランチメニューは5,000円・7,000円・10,000円の懐石くずしと、5,000円・7,000円のそば会席。

特徴は、コースにメイン料理がないこと。季節の名物を取り合わせ、お互いの味を邪魔しない料理が集まって一つの料理が完成するという。人気の揚そばがき、さわやかなトマトジュレ、出汁にこだわった吸い物。確かにメインがなくても一つひとつに感動し、全体が調和している。落ち着いた空間で感動のお料理をぜひ味わって頂きたい。ちなみに梅窓院からも歩いて行ける近さです。



上／一番人気の揚そばがき。そばブームの中で神谷さんが産み出した逸品です。
下／5,000円のランチのそばコース。目にも美しい盛り付け、料理を引き立てるお皿、そして思わず舌鼓を打つ料理。本物の日本料理を一度は味わいましょう。



営業時間／ランチ11:30～15:00 (L.O 14:30)
／ディナー17:30～22:30 (L.O 21:30)
定休日／日曜日・祝日
席数／28席 個室別途料金あり、座敷利用は
昼席5,000円・夜席15,000円～
住所／東京都港区赤坂8-11-19
エクセル乃木坂 1階
TEL／03-3497-0489

下さい。時間とお金はかかりますが(笑)、日本に生まれて良かったと思うこと請け合いです。
それと今は流行りでいうと、そばがブームですね。料理人でもそばが自分で打てる、それこそ満点どころか百二十点の料理人です。そばを好む人は多く、中でも酒飲みは特に好きですね。うちでもそば畑を前金で買って、いいそば粉を納めてもらっています。厘のコース料理の中でもそばは人気で、特に好評なのが、揚そばがきです。これは絶品ですからぜひ食べに来て下さい。



落ち着いた店内では着物姿の女性が料理を運び説明してくれます。



乃木神社下に「日本料理

私は三河の生まれで、家は床屋でした。上の兄二人で家業を継ぎ、私は子供の頃によく行った親戚の食堂で料理に惹かれました。良き師に恵まれここまで来られたことを幸せに思っています。そうそう、梅窓院に入檀したのは、さんの勧めです。三河の本家は神道でしたが、梅窓院さんの立地の良さもありお世話になりました。よろしくお願致します。

第五十六回

食は命

食養研究家
武鈴子

「芋煮鍋」で秋風邪を撃退!

秋口になると、咳やくしゃみが出たり、ぜんそくがひどくなる人も多いのではないのでしょうか。これは、空気が冷たく乾燥するようになる秋は、この乾いた空気を吸い込む鼻やノド、肺などの呼吸器が、からからに乾燥してダメージを受けやすくなっているからです。

鼻やノドの粘膜は、ウイルスや細菌の侵入を防ぐ、免疫システムの第一関門です。気温が高く、適度な湿度があれば、鼻やノドも潤い、免疫機能も十分に発揮できますが、秋の乾いた空気にあうと免疫力が落ちて、風邪やインフルエンザなどを発症しやすくなります。

そのため、秋は肺やノドを潤す薬効のある食材をとるようにします。梨、柿、百合根、れんこん、かぶ、里芋、大根、銀杏、栗、きのこ類など。これら秋が旬の食物は、体を潤して咳や痰などを止める働きを備えています。また、肺と大腸は表裏一体となっていて、呼吸器の異常はお腹のトラブルを招きます。風邪にかかるとお腹をこわしやすいのはそのためです。昔から風邪には、生姜湯や、ねぎ味噌を飲む習慣がありますが、ねぎ、生姜など辛味の食物は呼吸器と大腸をしつかりガードしてくれます。

山形の「芋煮鍋」は秋の代表料理の一つですが、主役の里芋は、ぬめり成分が胃腸を活性化して、消化を助け、便通をよくすることは科学的にも認められています。また、古い血の塊りを除いて、血行をよくし、皮膚や粘膜の炎症を鎮める働きもあります。

里芋、ねぎ、こんにゃく、厚揚げ、豚ばらなどを煮込んだ「芋煮鍋」で、体を温めて秋風邪を撃退しましょう!

行事予定

秋彼岸会法要

9月23日(火)
 寄席 午後1時～ 祖師堂
 法要 午後2時～ 祖師堂
 ※詳しくは3面をご覧ください。

第63回 念仏と法話の会

10月22日(水)
 受付開始 午前11時～
 お齋(そば)／別時念仏会／法話
 ／茶話会
 講師 佐賀教区 鏡智院
 中村一之上人
 ※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

文化講演会

10月26日(日)
 開場 午後4時15分 祖師堂
 開演 午後5時～
 【講師】隈研吾氏
 入場無料／先着300名
 ※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

十夜法要

11月15日(土)
 法要 午後4時～ 本堂
 ※詳しくは十夜号をご覧ください。

M・ファン・デン・フックピア川サイタル

11月22日(土)
 開場 午後2時15分 祖師堂
 開演 午後3時～
 冥加料 檀家2,000円・
 一般5,000円／先着300名
 ※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

平成25年度会計報告

自 平成25年4月1日
 至 平成26年3月31日
 (単位:千円)

■護寺費・年会費・墓地管理費

収入の部		支出の部	
護寺費・年会費として	77,227	浄土宗課金及び大本山宛志納金	3,260
		法要費(仏具・法衣・線香など)	39,834
墓地管理費として	32,114	修繕費(建物)	108,016
		修繕費(墓苑・境内)	10,298
梅窓院からの繰入金	87,158	人件費	29,225
		事務費(郵送費・コピーなど)	5,866
合計	196,499	合計	196,499

会計報告を本誌に掲載させて頂いており、ご確認を宜しくお願い致します。

梅窓院より会計のご報告

平成26年度 後期 仏教講座のご案内

全講座▶午後6時～8時 受講料▶無料 場所▶祖師堂 ※詳細は同封のチラシをご覧ください。

講 題／羅什伝を読む

講 師／阿川 正貫 先生(浄土寺住職、大正大学講師)

- 第1回… 10月9日(木) 出生・幼年期
- 第2回… 12月11日(木) シルクロード諸国にて
- 第3回… 3月2日(月) 故国・龜茲にて

講 題／法然上人と法難

講 師／新井 俊定 先生(天然寺住職)

- 第1回… 10月16日(木) 法然上人と「七箇条起請文」
- 第2回… 11月19日(水) 貞慶と『興福寺奏状』その1
- 第3回… 1月30日(金) 貞慶と『興福寺奏状』その2

講 題／大乘仏教を読む

講 師／勝崎 裕彦 先生(大正大学学長、香蓮寺住職)

- 第1回… 12月18日(木) 陀羅尼品第二十六の教え
- 第2回… 1月8日(木) 普賢菩薩勸発品第二十八の教え
- 第3回… 2月19日(木) 『法華経』の教えとその意義

講 題／法然上人のみ教え —『選択集』を読む—

講 師／林田 康順 先生(大正大学教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺副住職)

- 第1回… 1月19日(月) 『選択集』第8章 三つの心 —深心(下)—
- 第2回… 2月16日(月) 『選択集』第8章 三つの心 —廻向発願心(上)—
- 第3回… 3月9日(月) 『選択集』第8章 三つの心 —廻向発願心(下)—

講 題／仏教民俗学入門(2)

講 師／本林 靖久 先生(大谷大学・佛教大学講師、真宗大谷派僧侶)

- 第1回… 12月5日(金) 仏教と葬墓制 —モガリと鎮魂—
- 第2回… 2月6日(金) 仏教講 —血縁と地縁—
- 第3回… 3月27日(金) 仏教芸能 —踊念仏と念仏踊—

平成26年施餓鬼にて

「1日がかりの施餓鬼で」

5年前に檀家になってからご先祖様供養の為に法要にはできるだけ参加しています。施餓鬼は1日がかりですが、時間があつという間に過ぎ、帰る時にはまた次回も来たいと思います。日常では聞けないお話を伺うことができ、心が豊かになります。

「法話も楽しいです」

母が詠唱でお世話になっており、他の法要にも参加したことがあります。その中でも施餓鬼が一番大きく、より重みを感じる法要ですね。法話もとても楽しかったです。さだまさしさんの歌は知っていましたが、浄土宗との関わりは知りませんでした。

「宗祖法然上人800年大遠忌記念のためにさだまさしさんが作ってくれた歌が「いのちの理由」です。」

平成26年団体参拝旅行にて

「見て、食べて、楽しめました」

太宰府天満宮の太鼓橋が美しく、名物の梅ヶ枝餅も美味しかったです。善導寺さんでは歴史あるご本尊を拝顔し、また阿川台下からも感謝のお言葉を頂き恐縮致しました。地獄めぐりでは鬼石坊主地獄にも行ってみたいと思いました。

「この度の旅行は心に残る素晴らしい旅でした」

別府ロープウェイでは、綺麗に咲いたミヤマキリシマや鶴見岳から見た景色が最高でした。善導寺さんでは貴重なお話を伺い、またこうして800年続く楠木の大きさは、並々ならぬ努力があるからだと感じました。和気あいあい楽しく、またご僧侶や職員の方々のおかげで安心して旅行ができました。

お檀家さんに伺いました